

| | | | |
|------|---------|----------------------|----|
| 授業科目 | 疾病治療論 1 | 2 学年・前期・1 単位 (30 時間) | |
| | | 看護 | 必修 |

| | | | |
|---------|--|-----------------|-----------------------------------|
| 科目担当責任者 | 齋藤重幸 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : ssaitoh@sapmed.ac.jp | 非常勤講師 連絡担当教員 | |
| 担当教員 | 齋藤正樹、(白鳥正典)、(佐々木泰史) | | |
| 概要 | 疾病治療論 1 では、内科疾患に関する疾病概念と診断・治療法を学ぶ。循環器疾患、腎疾患、呼吸器疾患、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、免疫・アレルギー疾患、血液・造血器疾患、代謝・内分泌疾患、感染症、神経・筋疾患についてそれぞれの疾病の診断、検査、治療法の実際について学習する。講義内容は今後の看護学演習、実習に必須な知識である。内科学の知識や考え方に対する理解が十分でなければ、看護実践が困難となりうる。臨床医学が急速に発展している今日、高度で専門的な看護を実現するための必須の内容が講義には含まれている。講義は 2 年前期に同時期に開講される「疾病治療概論」、「症候と病態」と連動して行う。疾病治療論 1~4 で学ぶ知識は患者看護のみならず、医療スタッフや患者家族とのコミュニケーションにも必要なものであり、生涯にわたる看護学の自己研鑽の基盤となるものと考えられる。 | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統的に内科疾患を分類できる。 2. 個々の疾患概念について説明できる。 3. 個々の疾患の症状や臨床経過について説明できる。 4. 個々の疾患の診断や検査について説明できる。 5. 疾患概念に基づく内科的治療法について概説できる。 6. 以上により患者・家族・他種医療職と疾病についての正確なコミュニケーションができる。 | | |
| 関連科目 | 本疾病治療論(内科学)は解剖学、生理学、生化学、病理学を基盤とし公衆衛生学、疫学など社会医学と関連する。また診断・治療の選択には、心理学、行動科学、哲学など広範な知識を動員して最善の方法を得る努力が必要である。診断・治療の知識は日々更新されており、講義では極めて基本的な事項の説明に留まるが、各自日々の学習からそれぞれの理解を深める必要がある。本科目の理解は高学年での臨床実習に不可欠なものであるばかりではなく、生涯における自己研鑽の基盤となる。 | | |
| 評価 | 評価対象 | 評価割合(%) | 備考 |
| | 試験 | 60% | 評価は受講態度(講義中の発言頻度と内容)、小テスト、試験より行う。 |
| | 小テスト | 20% | |
| | 提出物 | 20% | |
| | | | |
| | | | |
| 教科書 | ①吉田他 [最新刊] 「系統看護学講座 成人看護学②③④⑤⑥⑦⑧⑩」 医学書院 | | |
| 参考書 | ①南学他 [最新刊] 「内科学書」 中山書店 ②矢崎他 [最新刊] 「内科学」 朝倉書店 | | |
| 履修上の留意点 | 1 年次に履修した解剖学、生理学、生化学、病理学の知識の上での講義を展開する。必修事項はレジメを配布するが、履修すべき項目は多岐・多大であるため、講義中にできるだけ内容を理解、消化した上で、さらに講義内容の重要項目については復習を行い、一生の知識として記憶してほしい。前期 15 回の講義で内科学全般を概観することになるが内容は濃く、今後の成人看護学履修に必要な不可欠な知識となることを理解して講義に臨むべきである。「症候と病態」「疾病治療総論」は本講義内容を補完するものとして開講される。 | | |

| 実施回 | 内 容 | 事前・事後課題 | 形態 | 担当教員 |
|-----|--|-----------------------------|----|-------|
| 1 | 内科学総論 | 事前：教科書該当部分の予習 事後：講義資料の復習 | 講義 | 齋藤(重) |
| 2 | 循環器疾患①：慢性心不全、急性心不全、狭心症、心筋梗塞、弁膜疾患、などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 3 | 循環器疾患②：不整脈、感染性心内膜炎、先天性心疾患、高血圧症、血管疾患などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |

| | | | | |
|----|--|---|---|-------|
| 4 | 腎疾患：腎不全、ネフローゼ症候群、慢性腎炎、腎腫瘍、膀胱炎、膀胱腫瘍、尿路結石、前立腺肥大症、前立腺腫瘍、精巣腫瘍などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 5 | 呼吸器疾患①：肺炎、気管支喘息、気管支炎などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | (白鳥) |
| 6 | 呼吸器疾患②：COPD、呼吸不全、肺腫瘍、胸膜疾患、縦隔疾患などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 7 | 消化管疾患：逆流性食道炎、食道静脈瘤、食道腫瘍、胃炎、胃腫瘍、十二指腸疾患、炎症性腸疾患、大腸腫瘍、消化吸収障害などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | (佐々木) |
| 8 | 代謝疾患：肥満症、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、骨粗鬆症などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 9 | 内分泌疾患：下垂体疾患(巨人症、尿崩症)、甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病)、副腎疾患(アジソン病、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫)、性腺疾患などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 齋藤(重) |
| 10 | 内分泌疾患：下垂体疾患(巨人症、尿崩症)、甲状腺疾患(バセドウ病、橋本病)、副腎疾患(アジソン病、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫)、性腺疾患などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 11 | 血液・造血器疾患：貧血、白血病、悪性リンパ腫、止血線溶系異常などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 12 | 免疫・アレルギー疾患：I～V型アレルギー、気管支喘息、関節リウマチ、SLE、シェーグレン症候群、各種血管炎、免疫不全症候群などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 13 | 感染症・寄生虫疾患：ウイルス感染症、細菌感染症、寄生虫感染症についての病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 14 | 神経疾患①：脳血管疾患、神経筋疾患などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 齋藤(正) |
| 15 | 神経疾患②：脳血管疾患、神経筋疾患などの病態・診断・治療 | 〃 | 〃 | 〃 |